
社長！ 裸の王様になっていませんか？

肩書に頼らず、人としての魅力で
社員を惹きつける経営者へ



目次

1. はじめに — 「裸の王様」とは？
2. 社長が陥りやすい裸の王様現象
3. 現場で起こる具体的な副作用
4. なぜ社員は肩書ではなく“人”についてくるのか？
5. おすすめする経営者が磨くべき3つの力
6. まとめ — 気づきが未来を変える



「裸の王様」とは？

「裸の王様」とは、自分が正しいと思い込み、周囲の声が届かない状態のことです。特に中小企業の経営者は肩書を持つことで、自分の言葉が絶対視されやすくなります。こんな状況が起きていたら危険かもしれません：

- 職場から本音の会話が消えている
- 会議で社長の発言に誰も反対意見を言わない
- 売上が上がらないことを幹部や管理者のせいになっている
- 優秀社員や右腕と呼ばれた人が順番に退職している



社長が陥りやすい裸の王様現象

「自分の言葉には絶対的な力がある」という錯覚

会議で社長の一言が「決定事項」となり、誰も意見を言わなくなる。

「現場が見えている」と思い込む錯覚

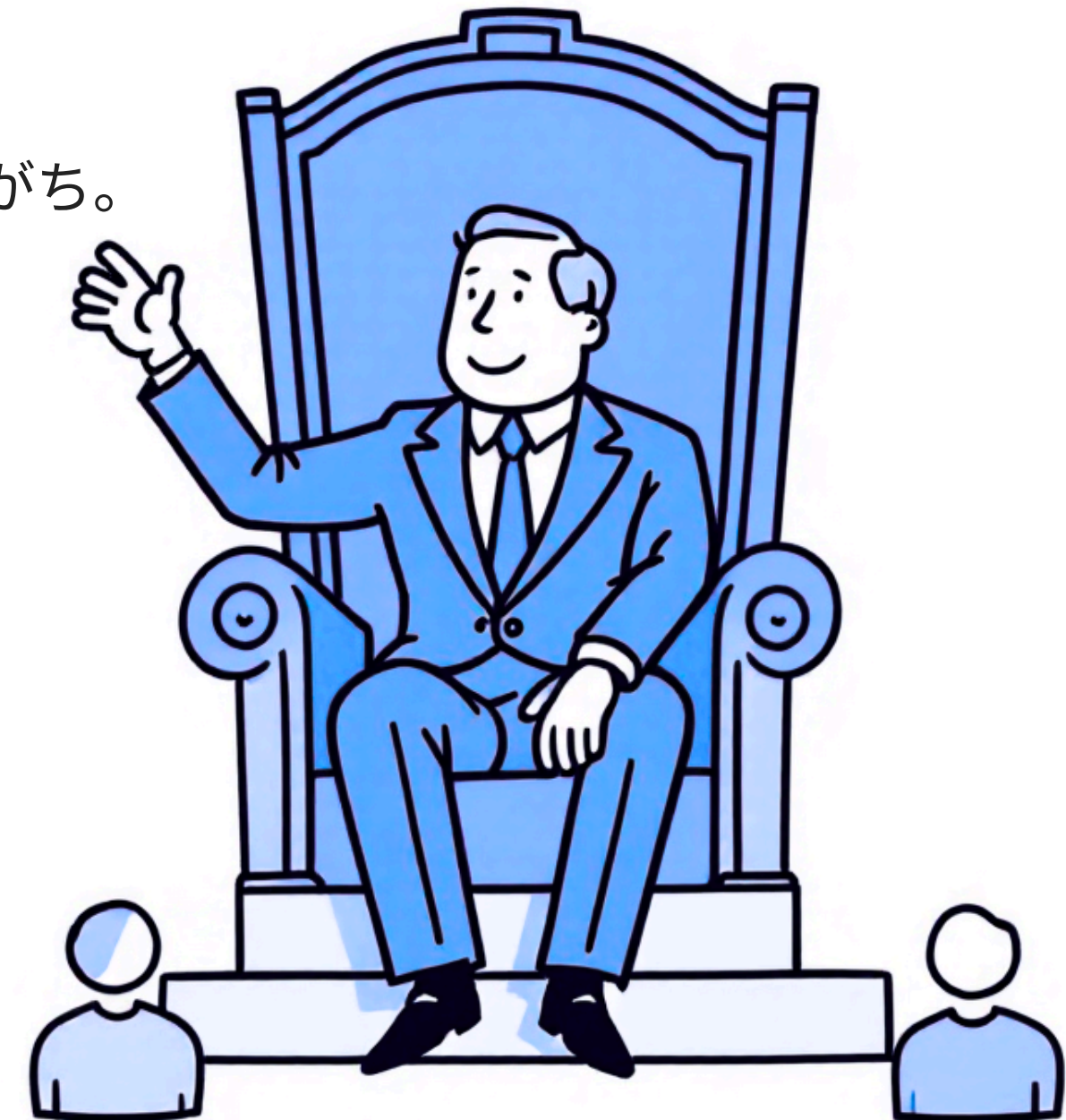
実際には社員が工夫で回しているのに、社長は「全部わかっている」と思い込みがち。

誰も指摘しなくなる現実

「言っても無駄」と感じた瞬間から、社員の口は閉ざされる。

イエスマンしか残らない組織

「はい」と言う人だけが評価され、本音を言える人材ほど去っていく。



現場で起こる具体的な副作用



新しい挑戦が止まり、失敗を恐れる文化が広がる



お客様目線が消え、「社長目線」が優先される



社員のエネルギーが「空気を読むこと」に費やされる



優秀人材が「ここでは挑戦できない」と去っていく



残った人たちも沈黙の文化に慣れていく

なぜ社員は肩書ではなく“人”についてくるのか？

社員が最初に従うのは「**肩書**の力」。

しかし最終的には「**人としての魅力**」で社長についていくかどうかが決まります。

背中を見せられるか？

「社員は家族だ」と口にする社長が、会社が大変なときやトラブル時に先頭に立たず、責任を部下に押しつけていたらどうでしょうか。

社員は瞬時に気づきます。

「結局、この人は逃げるんだ」と。

逆に、会社の存続や未来がかかった重要な局面で、社長自身が矢面に立ち、諦めずに社員と共に動いていれば、それは言葉以上の説得力を生みます。

それこそが「**背中を魅せる**」ということです。



なぜ社員は肩書ではなく“人”についてくるのか？

お客様目線を大切にしているか？

社員は社長の行動から「本当にお客様を大事にしているか」を敏感に見ています。クレームや不満の声を軽視していれば、その態度は社員にも伝染します。逆に、社長自ら顧客の声に耳を傾ければ、自然と社員も同じ姿勢をとります。

誠実さがあるか？

約束を守らない、話がコロコロ変わる（一貫性がない）
—そんな姿は一瞬で信頼を壊します。

小さな約束を守り続ける、感謝を伝える。
そんな些細な行動の積み重ねこそが誠実さを証明します。



オススメする経営者が磨くべき3つの力



自己内省力

自分を客観的に見る力

例：自分の発言が会議の空気をどう変えたかを振り返る。



会話力と対話力

声を引き出す力

例：社員の考えに興味を抱き「どう思う？」「なぜそう考える？」を日常会話に織り交ぜる。社員は安心して意見を出せるようになります。



人間的魅力

信頼・尊敬される力

例：社員に対しても丁寧な言葉を使う、感謝を口にする、ミスを認めて謝る。

気づきが未来を変える

最も危険なのは、経営者本人だけが「裸」であることに気づかない状態です。

社員は肩書ではなく「人」としての社長に惹かれます。

誠実さ、日々の小さな行動、社員やお客様に向き合う姿勢が信頼をつくります。

社長が人としての魅力で社員を惹きつけることで、

組織は強くなり、未来は変わります。

お問い合わせ

代表 飯田元輔による カジュアル面談（無料相談） を行っております。

こちらからお申込みいただけます

株式会社プロパト

Tel: 080-6177-1330

Email: info@pr-pt.com



お悩みが
まとまっていなくても
大丈夫です。
言語化のプロが
お手伝いします。

